

会員の ひろば

北海道医報では、特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容等を除いた幅広い多様性のあるご意見を掲載させていただいております。

ヘルニアを切ったの記

石狩医師会
花川病院

すがぬま ひろし
菅沼 宏之

2023年1月21日9時、自宅前の雪をスコップで押し込んだときに腰にぐきっときた。久しぶりのぎっくり腰か。痛い。雪かきを少し続けたが痛みで断念した。その後予定通り妻の車で散髪に行ったが歩くとお尻から大腿にかけて強烈に痛い。床屋で椅子に座ると楽になったが背もたれを後ろに倒すとこれがまた痛い。直立座位のままヒゲを剃ってもらい、洗髪も前屈みでもらった。家族との待ち合わせ場所にたどり着くため歩いているうち、腰を曲げて歩くと痛みが和らぐことに気がつき、人目をはばからず腰を深く曲げて地下街を歩いた。妻には何で整形外科に行かなかったのとあきれられる。硬膜外ブロックで一発で治まると説教された。

23日に麻生整形外科病院を受診した。MRIを撮影したが若干腰を伸ばして撮影し痛みが増した（もちろん技師さんは膝を曲げるなど配慮してくれていた）。L5/S1のヘルニアであった。先生から自然に吸収されることもあると説明を受け保存治療に望みを託した。いったん診察室を出たが深く腰を曲げ（50度くらいか）ないと歩けないので、希望して硬膜外ブロックを受けた。腰を伸ばしうつ伏せになった時点で痛みをこらえるのに必死、腹圧をかけさらに痛みが強くなる。ブロック後も痛みは治まらなかった。その後職場に出勤。4日後に日本医療機能評価機構による高度・専門機能の訪問審査を受けるのでその準備をしなければならない。5年前の資料を見つけ、アップデートする。あいまに担当患者のいる3つの病棟を回った。徐々に症状は悪化し3日後には腰の角度は70度になっていた。患者さんからは「お大事に」と声をかけられる。審査員へのプレゼンテーションの資料を作り、この内容で行くと

皆に説明する。ある病棟の師長から「その格好で出てくると、この病院大丈夫かと思われそうですよ」と言われ、事務長からも「お休みください」と言葉をかけられ休職することにした。

2月27日、訪問審査は他の先生にお願いし麻生整形外科病院を再受診。先生にどうしますかと聞かれ「切ってください」と即答、入院となった。車椅子で隔離室を兼ねた特別室に案内される。足にしびれが来ているのに気がつき安静を保たなかったことを後悔した。仰向けに寝られないので痛みの少ない姿勢（側臥位で股関節を屈曲）でひたすら手術を待った。

3日後に台にのって手術室に入り気がつけば病室に戻っていた。思ったより身体は楽で腰を伸ばしても痛みはない。手術を受けたのは学生時代の腎生検、肩鎖関節完全脱臼後の靭帯再建術に次いで3回目だったが、手術後の体調は段違いに楽で30～40年間の医学の進歩を身をもって実感した。翌日からリハビリテーションを開始。PTから骨盤の柔軟性を増す運動の指導を受け、また麻生整形外科病院の病棟の広い廊下を少しずつ歩いた。歩いている姿を見た主治医より退院の許可をいただき入院8日目に退院した。自宅で3日間療養し職場にも復帰した。腰を伸ばして歩いている姿を見た多くの職員から良くなったことを喜ばれ、皆様に心配をかけていたことを知る。若手医師からは快気祝いにシャンパンを贈られた。

リハビリテーション医でありながら疾患に対し無知で病状の重症度を理解できていなかったこと、入院するまで無理をして症状を悪化させたことを反省させられた。S1の神経症状は残っているが地道にリハビリテーションをしていきたい。手術をしていただいた麻生整形外科病院坂本直俊先生、また回診等がかかわっていただいた他の先生方、リハビリテーションスタッフ、看護スタッフの皆様に深く感謝申し上げます。再発しないよう努力し、この経験を普段の診療に生かしていくことを決意する次第です。

